

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設  
基本構想策定に係る検討会議（第4回）議事録

- 日 時：平成28年12月6日（火） 10：00～12：00
- 場 所：ふくしま中町会館5階東会議室
- 参加者：別紙出席者名簿のとおり
- 要 旨：以下のとおり

1. 開会

2. あいさつ

文化スポーツ局阿部次長からあいさつ

3. 委員紹介

4. 議事

【中野地区を含む両竹・浜野地区における津波シミュレーションの結果及びその地における土地利用計画について】（オブザーバー 双葉町平岩課長より説明）

- 中野地区復興産業拠点については、県の復興祈念公園の予定地に隣接しており、拠点内には県のアーカイブ拠点施設、町において整備する産業交流センター、産業研究業務施設、産業連携施設等整備が配置される予定。
- 双葉町では、津波被災地域の復興計画を検討するにあたり津波の影響を正確に把握するため、平成26年度、東日本大震災規模の津波が発生した場合のシミュレーションを実施。両竹・浜野地区のほとんどが浸水し、浸水範囲は約268ha、うち浸水深が2m以上の範囲は約141haとなった。
- 福島県の海岸・河川堤防の復旧に係る計画では、浪江町から双葉町の海岸堤防について、震災前の東京湾平均海面プラス6.2mから1mを加算し、プラス7.2mで整備を行うこととなっている。海岸堤防・河川堤防がプラス7.2mで整備された後における津波シミュレーションを実施したところ、参考資料の左側の下段にあるとおり、津波による浸水範囲は約6割、約160haに縮小し、うち浸水深2m以上の範囲は約4割、約58haに縮小した。復興産業拠点が整備される中野地区の陸側については、海岸線を嵩上げすることにより、津波リスクについては、大幅に少なくなる。

(1) アーカイブ拠点施設の機能について及び機能を果たすための諸室構成について  
事務局より資料1ページ及び2ページにより説明

## 【各委員からの意見】

- 調査・研究については、原子力防災に限定するのではなく、それ以外の分野についても行えるよう、幅広く捉えてほしい。
- 原子力災害について発信することは重要だが、3. 1 1以前を前提として、現在につながっていると思うので、3. 1 1以前の部分についてもしっかり記載すべきだと思う。
- 調査・研究においても、震災前の文化など残していくべきことを、しっかり言葉で記した方がいいと思う。展示・プレゼンにおいては、きちんと記載してあるので、収集保存や調査・研究についても、整合性をつけて整理した方がいいと思う。
- 全体的には、これまで大事にしてほしいと意見してきたことについて、きちんと入れていただいたと思う。
- 震災後、大学との連携による人材育成については、多くなされてきているが、大学に入る若者は一部であることを考えると、大学に入学する前の子どもたちについてもしっかり学べるよう、関係機関との連携について考慮をお願いしたい。
- アーカイブ拠点施設の役割を果たせるよう、施設における人材の配置をきちんと考えていただきたい。
- 震災前の福島について、この土地がもともとどういう土地だったかということを中心にちゃんと入れて欲しいと思う。
- 「原子力防災」という言葉に違和感を感じる。原子力災害の教訓、世界への発信などとした方がいいと思う。
- 支援をいただいた方への感謝というところを設けていただければと思う。
- アーカイブ拠点施設にどのように人を集めるかということをしっかり考えないと、関連施設も含めて人は来ないと思う。施設が原子力災害と東日本大震災の教訓を伝える施設であるなら、その教訓を伝えることで、来た人にどんな意義があるのかということをしっかり考えて作り込んでいかなければと思う。
- 先ほど原子力防災という言葉がでてきたが、再稼働のための原子力防災なのかと誤解が生まれてしまうと感じた。
- アーカイブ拠点施設という人呼び込むことのできる1つの点ができるので、それを線で結んでいくような話をしてほしい。例えば、高速道路でいわきや仙台の方から人がくると思うが、アーカイブ拠点施設を見た後に、その人達をどのようにして、福島県全体へ誘導していくか、そこも併せて考えてほしい。
- 以前は、幼稚園から中学生まで、遠足といえば、大体常磐ハワイアンセンターに行っていた。福島県の子どもたちにもそのぐらいの位置づけでアーカイブ拠点施設において学んでもらえるようになってほしい。
- 福島に残る子どもたちもいれば、福島から他県へ出て行く子どもたちもいるので、昔、今、これからの福島について正しく伝えることのできる人を育てることが、この施設の役割だと思う。県も巻き込み、義務教育課程の中で、震災に関する教育を行っていくことも大切だと思う。
- 調査・研究、研修、交流人口の増加などの機能を担うのであれば、宿泊施設が必要になると思う。企業研修などの受け入れを行う際に、宿泊場所は毎回苦労している。
- 高速道路の延伸など、県内を時間短縮で回れるよう、総合的な計画も一緒に考えてほしいと思う。
- 資料の中の「人口交流の増加が帰還促進の寄与」という言葉について、帰還をすることは、町民にとっては、大きな選択で、繊細な問題だと思う。町が賑わいを取り戻

すということと、帰還をするということは、別の問題だと思うので、帰還という言葉を使うことについては違和感がある。

- 福島の未来の姿についてだけでなく、元々住んでいた方が長年大切にしてきたことについて、共感できるようなものがあれば、修学旅行などで小学生が学びに来てくれる施設になると思う。
- 整備する諸室について、すべてが同じような部屋になるのではなくて、それぞれが特徴を持った部屋になるようお願いしたい。例えば、展示について言えば、単なる部屋ではなく、一種のシアターのようなホール、映像が映し出されたり、音響設備、照明設備があるような空間が1つあると、さまざまな表現ができると思う。それぞれの部屋に特徴を出せば、こんな素敵な空間があるなら使ってみようと思えば人が集まると思う。
- アーカイブ拠点施設を1つの拠点として、双葉郡、相馬郡、いわき市などで整備するアーカイブ施設を見たいという人を実際に現地に案内するツアーガイドの窓口のようなものを設置いただければ、人は集まりやすくなると思う。
- 収集・保存のスペースの確保は重要で、余裕のある収蔵の整備を最初の段階から念頭に置いて進めてほしい。また、物によって保存環境が違うので、紙素材、フィルム、それほど気を遣わなくてもいい鉱物など、様々な物の材質に応じた収蔵庫が整備されるようお願いしたい。
- アーカイブ拠点施設の周辺に、双葉町においても研究施設等を整備するとなると、調査・研究については、双葉町の施設でもできると思うので、アーカイブ拠点施設においては、調査・研究を控えめにして、流動性のある会議施設を整備するなど、収集保存と展示・プレゼンに生かされればいいと思う。

## (2) 双葉町産業交流センター（仮称）との連携について

事務局より資料3ページ、4ページにより説明。

### 【各委員からの意見】

- 双葉町やほかの市町村でもアーカイブ施設を整備しているが、福島県のアーカイブ拠点として、何を伝えるのか、何を残していくのかということを中心に考えないといけない。
- 先ほど、宿泊施設の話やツーリズムの窓口の話もあったが、県としてどうするかをきちんと謳ってほしい。
- アーカイブ拠点施設と産業交流センターとの連携は、基本構想の中において何らかの形で盛り込まれるのか。

### ⇒【事務局からの回答】

隣同士で整備されるので、連携については基本構想に盛り込んでいく。また、他の地域への回遊についてもゲートウェイとしての機能を果たす必要から、基本構想に盛り込んでいくこととなる。

- アーカイブ拠点施設が県全域を含む拠点施設ということなので、展示などの体験を通じ、全県的な、例えば、会津なども含めた福島県を感じることができるよう施設になってほしい。
- 連携という一語でまとめずに、県としてアーカイブ拠点施設においてこういうことを伝えたい、その上で足りない部分を他の施設で補っていくというように、細かく示していただきたいと思った。

- アーカイブ拠点施設については、明確な理念、目標があると思う。限られている予算や土地の中でどれだけ最善のものを作れるのかということを追っていただき、その上で足りない部分について、双葉町と詰めていくというのがいいと思う。
- 周辺で様々なお店が出店していくこととなると思うが、市場の経済、競争という部分はきちんと取り入れる必要があると思う。毎年予算がもらえる状況になると、サービスの質が低下してしまう恐れもあるので、きちんとサービスを維持できるような一定程度の競争は必要だと考えている。

## 5 閉会